

船舶事故等調査報告書

平成26年12月18日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014広第133号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年6月17日 04時45分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市水島港ヒコベ（干出岩）南側付近 倉敷市所在の三百山 <sup>さんびやくやま</sup> 四等三角点から真方位298° 1,075m付近 （概位 北緯34° 27.3′ 東経133° 46.2′）
事故等調査の経過	平成26年7月30日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 引船 第十一あき丸、19トン 273-8405 広島、SAマリン有限会社 B 台船 <sup>エスエー</sup> SA8号、長さ40.0m、幅14.5m、深さ2.5m なし、宗田造船株式会社
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	なし
損傷	A 左舷船尾ブルワーク及びヒールピースに曲損、プロペラ翼に欠損 B なし
事故等の経過	A船は、船長Aほか1人が乗り組み、B船をえい航し、水島港 <sup>たかむろ</sup> 高室沖を約4.7ノットの対地速力で北北西進中、平成26年6月17日04時45分ごろヒコベ南側付近の浅所に乗り揚げた後、B船がA船の左舷船尾に衝突した。 A船は、高潮時にタグボートで引き下ろされ、航行に支障がなかったことから運航を継続し、その後、造船所で修理された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期 日出時刻：04時52分ごろ
その他の事項	A船の喫水は、船首が約1.2m、船尾が約2.5mであった。 A船は、潮流の影響が少ない沿岸を航行して広島県福山市田島に向かう予定で高室沖を航行していた。 船長Aは、これまで高室西方沖の掘下げ水路を航行していたが、倉敷市西ノ埼沖で変針した際、最短距離となる同水路外の沿岸寄りを航行した。 船長Aは、船内に海図W1127Aを保有していたが、同海図で予定航行経路付近の水路状況を確認しておらず、また、GPSプロッターを使用していたものの、表示画面を約3海里（M）レンジにしており、同画面にヒコベが表示されていなかったため、ヒコベの存在に気

	<p>付かなかった。</p> <p>本船のGPSプロッターでは、約1Mレンジでヒコベが表示された。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、B船をえい航して高室沖を北北西進中、船長Aが予定航行経路付近の水路調査を行っていなかったことから、ヒコベに気付かずに航行し、ヒコベ南側付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、日出前の薄明時、A船が、B船をえい航して高室沖を北北西進中、船長Aが予定航行経路付近の水路調査を行っていなかったため、ヒコベに気付かずに航行し、ヒコベ南側付近の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海図やGPSプロッターを使用して予定航行経路付近の水路調査を行うこと。</li> </ul>